関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等図画工作科指導法			17737	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
花房 雅剛	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校学習指導要領　図画工作の目標および内容を理解し、授業実践できる力を身に付ける。そのために情報機器等を活用し、低・中・高学年それぞれの目標を理解し、作品の制作（教材研究）をとおして指導上必要な知識と技術を習得する。このクラスではＫＡＩＳＥＩパーソナリティーのＡ（自律）とＩ（知性）を養う。

授業の概要

講義やディスカッション、作品作りをとおして図画工作科の指導内容や指導方法、評価等について学ぶ。鑑賞の分野では、視聴覚機材及び博物館、美術館等を活用し作品鑑賞のねらい等を学習する。

授業計画

1.学習指導要領にある図画工作科の目標等と役割
2.図画工作科の年間計画、授業設計、指導案のつくり方
3.思考の継続化を図る図画工作科としての横断的学習の授業設計
4.図画工作科と他教科との領域の関係を理解した横断的学習の教材研究
5.図画工作科としての言語活動と評価
6.絵画の表現形式
7.絵画表現に関する教材研究
8.版画の種類と仕組み、用具の安全な使い方
9.模擬授業①：版画の表現技法に関する指導方法と授業改善の視点
10.様々な材料、用具を使った立体・工作の表現
11.模擬授業②：立体・工作に関する用具の安全な使用方法
12.造形遊びに関する用具や材料の使用方法と場所の活用方法
13.美術館を活用した効果的な鑑賞指導と授業設計
14.模擬授業③：美術館での効果的な鑑賞指導の在り方
15.まとめと定期テスト

授業の方法

講義と作品制作（教材研究）を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点７０％　定期試験３０％

欠席について

欠席１回について3点減点、遅刻1回について1点減点

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説　図画工作編』

参考図書

日本文教出版『図画工作』『ずがこうさく』

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等家庭科指導法			17741	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

小学校における家庭科教育に必要な実践的指導力を身に付ける。学習指導要領に示された小学校家庭科の目標と内容、その指導上の留意点を理解する。小学校家庭科とその背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。小学校家庭科の学習指導の理論と方法を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのＩ（知性）を養う。

授業の概要

小学校家庭科の目標と内容、家庭科教育のために必要な学習指導の理論と方法、教材研究などを学ぶ。さらに、子どもの発達段階や生活実態を踏まえた、また情報機器及び教材を活用した授業設計と学習指導案の作成を学び、模擬授業を行う。

授業計画

1.小学校家庭科の目標と内容
2.「家族・家庭生活」「衣食住の生活」に関する指導上の留意点
3.「消費生活・環境」に関する指導上の留意点
4.小学校家庭科の評価
5.「家族・家庭生活」「衣食住の生活」に関する教材研究
6.「消費生活・環境」に関する教材研究
7.子どもの発達・生活と家庭科教育
8.小学校家庭科の施設・設備（情報機器含む）
9.小学校家庭科の学習指導の理論と方法
10.小学校家庭科の学習指導計画
11.小学校家庭科の学習指導案の作成
12.「家族・家庭生活」「衣食住の生活」の模擬授業
13.「消費生活・環境」の模擬授業
14.模擬授業の検討・改善
15.まとめ

授業の方法

講義に加えて、ディスカッションと模擬授業をとりいれる。

準備学修

Webで参照すること。60時間。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点30％、定期試験70％

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説　家庭編』東洋館出版

参考図書

必要に応じて授業中に指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期　間	人数制限
生徒指導論（進路指導を含む）	教職小	17753	Ⅲ	春	

担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験
花房 雅剛	選択	2	公立小中学校教員

授業の到達目標
生徒指導の意義や原理を学ぶとともに学校現場における生徒指導体制や課題を理解し、自己実現を目指す進路指導のあり方を習得し、教員として必要な資質・能力を高め、実践的な指導力を身に付ける。このクラスでは、ＫＡＩＳＥＩパーソナリティーのA(自律) とI(知性) を養う。

授業の概要
今日的な生徒指導・進路指導の課題を学校現場の情報や新聞等の資料より把握し、『生徒指導提要』等に基づき生徒の内面理解を基盤に据えた生徒指導・進路指導のあり方を考察する。

授業計画
1. 生徒指導の意義と目的
2. 教育課程と生徒指導
3. 学校組織としての生徒指導
4. 進路指導・キャリア教育と生徒指導
5. 児童生徒理解を図る方法とその活用
6. 学級担任としての生徒指導
7. 集団指導と個別指導
8. 教育相談の進め方
9. 基本的生活習慣の確立(学校・家庭・地域の役割)
10. 学校と家庭・地域・関係機関の連携
11. 生徒指導に関する法制度
12. 問題行動の未然防止と早期発見
13. いじめと不登校
14. 情報教育と生徒指導
15. まとめと定期テスト

授業の方法
講義とディスカッション

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法
平常点３０％　定期試験７０％

欠席について
欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点

テキスト
文部科学省『生徒指導提要』

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期　間	人数制限
子どもの保健ⅠB		17762	Ⅲ	春	

担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験
籔内 順子	選択	2	看護師、看護教員

授業の到達目標
「子どもの保健ＩＡ」の子どもの心身の発育・発達について学習したことを踏まえて、保育者に必要とされる子どもの保健分野をより深めるために、子どもの疾病とその予防方法および適切な対応、保育における環境および衛生管理並びに安全管理について理解する。また施設おける子どもの心身の健康および安全の実施体制についても理解する。このクラスではKAISEパーソナリティーのK（思いやり）を考える。

授業の概要
子どもはさまざまな面で未熟で、事故発生の危険性や感染症に罹ることが多い。日々子どもの心身の健康を守り、健康増進に努め順調な発育・発達を促すことは、保育する上で最も基本的な要件である。「子どもの保健ＩＡ」で学んだ基本的な知識を理解したうえで、子どもの感染症や病気について学ぶ。また、集団生活の場での保健活動や母子保健に関する行政の関わりや法制度の現状について学ぶ。保育者自身の心身の健康管理についても学ぶ。

授業計画
1. 子どもの病気と保育①子どもの病気の特徴
2. 子どもの病気と保育②子どもの健康状態の把握
3. 子どもの病気と保育③主な症状の見方と対応
4. 子どもの病気と保育④子どもの病気の予防と対応
5. 子どもの病気と保育⑤子どもによく見られる疾患(イ.感染症)
6. 子どもの病気と保育⑥子どもによくみられる疾患(ロ.感染症)
7. 子どもの病気と保育⑦子どもによくみられる疾患(ハ.感染症以外の疾患)
8. 子どもの病気と保育⑧子どもによくみられる疾患(二.感染症以外の疾患)
9. 子どもの病気と保育⑨障害のある子どもたち
10. 子どもの病気と保育⑩発達障害への理解と対応
11. 環境および衛生管理並びに安全管理①保育環境整備と保健
12. 環境および衛生管理並びに安全管理②保育現場における衛生管理
13. 健康および安全の実施体制保育現場における事故防止および安全対策並びに危機管理
14. 保育所と家庭の連携
15. 母と子どもの保健
まとめ
終講試験

授業の方法
主に講義形式で進める。グループワークや発表も取り入れる。

準備学修
日頃から子どもの発育・発達に関心を持つ。子どもに関する情報や感染症の流行などについて、新聞や報道など身近なこととして捉える。
事前に必ずテキストは熟読しておくこと。また、事前課題を提示するため、当日までに完成させておくこと。

課題・評価方法
平常点30%、定期試験70%
レポート等の提出期限を守らない場合は減点対象とする。
また、講義中の居眠り、雑談、不必要なスマホ操作なども減点対象とする。30%、定期試験70%

欠席について
欠席は減点対象とする。1回の欠席で2点減点とする。

テキスト
①子どもの保健Ⅰ 佐藤益子編著 ななみ書房　 必要時プリント配布
②子どもの保健Ⅱ 佐藤益子編著 ななみ書房

参考図書
国民衛生の動向（財）厚生統計協会編　授業時に適時紹介する。

留意事項
受講条件として「子どもの保健ＩＡ」を履修した者。
グループワークや発表も評価の対象とする。

教員連絡先
juno73@yahoo.co.jp